

幼保連携型認定こども園「松陽こども園」

令和8年度事業計画

★中長期計画(5ヶ年計画)

●教育保育目標

「心身ともに健やかな子ども」
げんきなからだ・やさしいこころ・がんばるちから」

●施設整備計画

年度	R6	R7	R8	R9	R10
計画			相談室改修		

●人事計画目標

- ・OJTの実施により若手職員を育成し実践力を高める。
- ・職種にこだわらずキャリアアップ研修、子育て支援員研修の受講を勧め一人一人のキャリアの構築を目指す。組織の一員として教育・保育を学ぶ重要な機会とし、即戦力向上を図る。
- ・職員育成・評価シートは個々の目標設定や課題解決に繋がる指針として活用し組織全体の質の向上を図る。上司からのフィードバックにより働く意欲の向上と継続に努める。
- ・優秀な人材確保に向けて実習生を積極的に受け入れ、学びたい意欲に寄り添い、細やかな対応や指導に努める。

●収支計画目標

- ・適切な予算の執行に努め収支の安定を図る。

●業務の改善・働き方改革・組織作り

- ・業務効率化のためICT化の推進を積極的に行い、働き方改革へ意識を園全体で共有する。ノンコンタクトタイムや休憩時間の確保に尽力する。
- ・組織作りの一環として職員の同僚性と協働性を養うため「お互いを思いやる気持ち」を持った関係性の醸成を図る。クラスの枠を越え職制毎の情報共有、連携を重視し対話を重ねる。職員の主体性を尊重する。

★単年度事業計画

●教育保育計画

- ・R8年度めざす子ども像「やりたいがあふれる子」
重点事項：やりたいが実現できる環境
一人一人の子どもの思いが尊重される保育
- ・子どもの興味関心から夢中になって遊ぶ姿を探求、考察する。
- ・園内研修、公開保育（園内外・施設関係者評価）で学び合う。地域教育関係者の声を大切に受け止め、園の役割を再考する。

●食育計画

- ・保育者と連携協力し健康な生活の基本として食を営む力を育て食への関心や態度を養い、望ましい食習慣の育成を図る。
- ・さまざまな食育活動の中で子どもたちが人や食材とふれあい自然の恵み、食に関わる人への感謝の気持ちや食と生命の関わりを知り命を大切に作る気持ちを育む。

●保健衛生計画

- ・子どもたちが心身ともに健康で安全に過ごせるよう保健管理（心身面・環境面）を適切に実施していく。
- ・子どもたちが自分の体や健康に関心を持ち、病気の予防など必要な活動を推進する。
- ・園内の環境衛生を整え、感染症の予防をする。

●子育て支援計画

- ・子育て親子の交流の場の提供と交流の促進、子育て等に関する相談・援助の実施、地域の子育て関連情報の提供を行う。
- ・支援の必要な親子の把握に努め、地域子育て支援の充実を図る。（育児相談・一時預かり）

●地域との連携

- ・災害時における地元町内との協力体制の強化を図る。
- ・地域の方々(畑の先生他)との交流活動を持続し充実させる。
- ・HPや情報誌を通し地域に開かれた園として情報発信を積極的に行う。

●健やか保育の推進・発達支援センターえぶりいとの連携

- ・「気になる子」から「配慮を必要とする子」「困っている子」へと捉え直し、子どもを主体として支援の在り方を考える。
- ・子どもの発達や特性を理解し、子どもの見方を探り、よりよい援助を行う。支援の方法や関わりをえぶりいと共有し子どもの育ちを保護者と共に支えていく。5歳児健診結果より保護者の相談に丁寧に応じ、就学前の年長組へと発達を繋いでいく。

●小学校との接続・連携

- ・授業、行事、懇談等を小学校教職員と情報交換を密にする。交流活動を実施し小学校と園との関係性を構築していく。
- ・小学校教職員による園の行事見学（運動会・発表会）や公開保育を通して、幼児教育への理解を深める機会を設ける。

●外国籍児童支援

- ・ブラジル国籍児にはポルトガル語の担当専任職員を配置し異文化理解のもとに外国籍児童支援する。

●加算事業実施予定

加算事業状況		加算事業
加算部分①	実施事業	処遇改善等(区分1及び区分2)、副園長・教頭配置、学級編成調整加配、3歳児配置改善、満3歳児対応加配(未定)、チーム保育加配、通園送迎、給食実施、講師配置、1歳児配置改善
	未実施	外部監査費
加算部分②	実施事業	療育支援、事務職員配置、処遇改善等(区分3)、冷暖房費、栄養管理
	未実施	除雪費、降灰除去費
	3月事業報告	施設関係者評価、高齢者活躍促進、施設機能強化推進、小学校接続、保育ICT推進(予定)

●特別保育事業等実施予定

特別保育事業	補助金の有無	実施状況
延長保育促進事業	適用あり	実施
病児保育事業(体調不良児)	適用あり	看護師1名配置
地域子育て支援事業	小松市廃止	実施(ほけっとさん)
一時預かり事業	適用あり	実施
保育体制強化事業	適用あり	職員配置
保育補助者雇上強化事業	適用あり	職員配置
外国籍児童支援事業	適用あり	実施

●小松市単独事業等実施予定

保育体制強化(障害者雇用枠)	50,000円/月	実施予定
住居支援事業	13,000円/月/人	該当職員なし

★定員と入園状況(下段は4月在園予定人数)(R8.1.15現在)

定員	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	小計	合計
1号				5	5	5	15	135
				3	5	7	15	
2号				25	25	25	75	134
				24	25	27	76	
3号	7	19	19				45	(99.2%) 対前年 ▲4
	3	18	22				43	

幼保連携型認定こども園「月津こども園」

令和8年度事業計画

★中長期計画(5ヶ年計画)

●教育保育目標

心身ともに健康な子ども 自然を大切にする子ども

自分で考えて行動できる子ども

●施設整備計画

年度	R6	R7	R8	R9	R10
計画	太陽光発電装置設置工事完了 小プール修繕 園庭整備完了	ランチルーム・事務所改修工事完了 大プール修繕			

<備考>ランチルーム兼休憩室、事務所の有効活用

●人事計画目標

*新採獲得とつながり

- ・SNSを活用した園の魅力発信
- ・大学などへの訪問の継続
- ・実習生などとのフォロー体制を整え、採用につながる関係を維持する

*外部講師を活用した園内研修の充実

●収支計画目標

- ・園児数の動向を踏まえた適正な定員管理
- ・適正な予算執行による収支の安定化

★単年度事業計画

●教育保育計画

- ・自然や地域との関わりを大切に体験活動を通して子どもたちの「知識や技能の基礎」「考える力や表現する力」「学びに向かう力、人間性等」を育てていく。
- ・子ども一人一人の「やってみたい」「こうしたい」という気持ちを尊重し、その思いに寄り添いながら関わる。また、子どもが自分で選び、考え、行動する姿を丁寧に受け止め、安心して挑戦できる環境づくりを大切にしていける。

●食育計画

- ・ランチルーム改修により、食育の推進および異年齢交流を促す多機能コミュニケーション空間としての活用を図る。
- ・野菜の栽培やクッキング活動を通して食のプロセスへの関心を高め、自然の恵みに対する感謝の気持ちを育てる。
- ・お味見当番や配膳の手伝いなどの役割を担う経験を通して、主体的に食に関わる姿を支え、自立心・自己肯定感・思考力などの非認知能力の育成につなげる。

●保健衛生計画

- ・園児一人ひとりの健康状態・発育発達を継続的に把握し、個別支援を充実させる。
- ・感染症対策・体調不良児対応の徹底と、家庭との協働体制を強化する。また、食物アレルギー対応の体制を確立し、誤食防止と緊急対応力を高める。
- ・子ども主体の健康教育を推進し、健康習慣の定着を図る。
- ・歯の健康を守るため、フッ化物洗口を継続する。
- ・今年度よりオージオメーターを使用して聴力測定の定着。

●子育ての支援計画

- ・子どもの最善の利益を最優先とし、保護者の思いに寄り添いながら、園・家庭・地域が協働して子育てを支える体制を整える。
- ・保護者が安心して子育てに向き合えるよう、相談しやすくなりやすい環境を構築するとともに、地域に開かれた園として子育て支援の拠点となることを目指す。
- ・多様な家庭状況や働き方に応じた柔軟な支援を行い、地域全体の子育て力向上に寄与する。

●地域との連携

- ・地域との継続的な交流および防災連携を強化し、園児の安全確保と健やかな育ちを支える地域共生の体制を構築する。
- ・地域住民に対し園の教育・保育への理解を深めてもらい、相互に支え合う関係づくりを推進する。

●小学校との連携・接続

- ・園と小学校が相互に教育内容・子どもの実態・支援方法を共有し、連続性のある学びと生活の基盤を整える。
- ・保護者に対しても接続期の理解を深めてもらい、三者（園・家庭・小学校）で子どもの育ちを支える体制を構築する。
- ICTシステムをキッズビューからコドモンへ移行する。初期段階では操作面での戸惑いが予想されるため、職員研修・マニュアル整備・情報共有を行い、抜け漏れのない運用体制を構築する。

●加算事業実施予定

加算事業状況		加算事業
加算部分①	実施事業	処遇改善等(区分1及び区分2)、副園長・教頭配置、学級編成調整加配、3歳児配置改善、満3歳児対応加配(未定)、チーム保育加配、通園送迎、給食実施、講師配置、1歳児配置改善
	未実施	外部監査費
加算部分②	実施事業	療育支援、事務職員配置、処遇改善等(区分3)、冷暖房費、栄養管理
	未実施	除雪費、降灰除去費
	3月事業報告	施設関係者評価、高齢者活躍促進、施設機能強化推進、小学校接続、保育ICT推進(予定)

●特別保育事業等実施予定

特別保育事業	補助金の有無	実施状況
延長保育促進事業	適用あり	実施
病児保育事業(体調不良児)	適用あり	看護師1名配置
地域子育て支援事業	小松市廃止	実施(あいあいのへや)
一時預かり事業	適用あり	実施
保育体制強化事業	適用あり	職員配置
保育補助者雇上強化事業	適用あり	職員配置
外国児童支援事業	適用あり	実施

●小松市単独事業等実施予定

事業名	金額	実施状況
保育体制強化(障害者雇用枠)	50,000円/月	実施なし
住居支援事業	13,000円/月/人	該当職員有

★定員と入園状況(下段は4月在園予定人数)(R8.1.15現在)

定員	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	小計	合計
1号				3	4	3	10	100
				3	5	2	10	
2号				15	15	15	45	90
				13	18	15	46	
3号	15	15	15				45	(90.0%) 対前年 ▲4
	4	15	15				34	

幼保連携型認定こども園「中海こども園」

令和8年度事業計画

★中長期計画

●教育保育目標

「遊びを通して様々なことを学び、生きる力を身につけていく」

- ・健康で心豊かな子ども
- ・感性豊かな子ども
- ・思いやりのある優しい子ども
- ・自分で考え、進んで行動できる子ども

●施設整備計画

年度	R6	R7	R8	R9	R10
計画			※園庭整備事業		

※補助事業対象の場合に実施

<備考>

●人事計画目標

- ・職員育成・評価シートをもとに、キャリアパスフレームに基づいた意識の向上を図る。
- ・キャリアアップ研修等の計画的な受講を勧め、一人一人のキャリアの構築を目指す。
- ・積極的な実習生の受け入れとアルバイト学生の雇用をし、細やかな対応や指導に努め、新規採用につなげる。

●収支計画目標

- ・地域の実情に合わせてそれに見合った利用定員を考えていく。
- ・無理、無駄なく計画的な予算執行に留意する。

★単年度事業計画

●教育保育計画

- ・子どもの安心と安全を第一に、受容的・応答的な関わりや対話を大切にし、教育・保育の充実を図る。
- ・日常的な異年齢の関わりの中で全職員で子ども一人ひとりを見ることを意識し、職員間の信頼関係を大事にしていく。特に異年齢での行事については一人ひとりの子どもの主体性を大切にして進めていく。

●食育計画

- ・野菜の栽培や調理等、食に関わる体験を積極的に取り入れ、食や食材への興味や関心を育む。
- ・保育者と連携し、子どもの食事状況や体調に配慮しながら安心して食事ができる環境作りに努める。

●保健衛生計画

- ・園児の健康状態や発育及び発達の状態の把握、一人一人の健康の保持及び増進を進める。
- ・疾病や感染症等への対応（体調不良児、感染症対策、個別ケア等）を家庭と協力・連携しながら徹底する。

●子育て支援計画

- ・子どもの利益を最優先し、かつ保護者の自己決定や自己選択を尊重するように努める。
- ・園と保護者が協力して、子どもの育ちを支えていく関係を構築していく。
- ・支援の必要な親子の把握に努め、地域の子育て支援の充実を図る。（育児相談、情報誌発行、子育て親子の交流の場の提供など）

●地域との連携

- ・地域との交流活動や地域の環境資源を取り入れるとともに地域文化の継承（仏御前、剣舞）を大切にする。
- ・園だよりや情報誌等を配布し、園の取り組みを積極的に発信していく。
- ・福祉、食育、環境、防災その他で地域の各種団体との連携を図る。

●小学校との連携・接続

- ・年長児の小学校生活への不安をやわらげ期待を持てるように小学校との交流を図る。
- ・小学校と園との関係性を構築する。
- ・園長と小学校長間の情報交換を図る他、園と小学校が互いに関係者評価者となり、自己評価結果を通して互いの教育・保育に理解を深める。

●加算事業実施予定

加算事業状況		加算事業
加算部分①	実施事業	処遇改善等(区分1及び区分2)、副園長・教頭配置、学級編成調整加配、3歳児配置改善、満3歳児対応加配(未定)、チーム保育加配、通園送迎、給食実施、講師配置、1歳児配置改善
	未実施	外部監査費
加算部分②	実施事業	療育支援、処遇改善等(区分3)、冷暖房費、栄養管理
	未実施	除雪費、降灰除去費
	3月事業報告	施設関係者評価、高齢者活躍促進、施設機能強化推進、小学校接続、保育ICT推進(予定)

●特別保育事業等実施予定

特別保育事業	補助金の有無	実施状況
延長保育促進事業	適用あり	実施
病児保育事業(体調不良児)	適用あり	看護師1名配置
地域子育て支援事業	小松市廃止	実施(たんぼぼさん)
一時預かり事業	適用あり	実施
保育体制強化事業	適用あり	職員配置
保育補助者雇上強化事業	適用あり	職員配置
外国児童支援事業	適用なし	在籍なし

●小松市単独事業等実施予定

保育環境支援(障害者雇用枠)	50,000円/月	実施なし
住居支援事業	13,000円/月/人	該当職員なし

★定員と入園状況(下段は4月在園予定人数)(R8.1.15現在)

定員	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	小計	合計
1号				5	5	5	15	60
				6	5	4	15	
2号				8	8	8	24	55
				9	7	8	24	
3号	5	7	9				21	(91.6%) 対前年 ▲2
	1	5	10				16	

幼保連携型認定こども園「蓮代寺こども園」

令和8年度事業計画

★中長期計画(5ヶ年計画)

●教育保育目標

- 「健康な心と体」
- 「あふれる意欲と好奇心」
- 「豊かな感情と道徳性」

●施設整備計画

年度	R6	R7	R8	R9	R10
計画					

●人事計画目標

- ・園内外の研修、視察、講師招聘による人材育成と組織力向上。
- ・職員研修規程の積極的運用、キャリアパスフレームに基づいた職員一人一人の資質向上とキャリアの構築。
- ・OJTの実施による若手職員の育成。
- ・学生アルバイトの募集。

●収支計画目標

- ・園児数の確保と適正な利用定員、職員の適正配置による運営及び加算、補助金の確保。

★単年度事業計画

●教育保育計画

- ・子ども一人一人の安心安全を土台に(安全)、環境との関わりを通しての主体的な活動を尊重し(自然)、人との関わりを楽しみながら社会性・人間性を育てていく(積善)。
- ・異年齢交流の活動の幅を広げるとともに、年上児へのあこがれや年下児への思いやりなどを育む。
- ・スマイル農園での活動を通して、自然の移り変わりや収穫の喜び、人との触れ合いなど、様々な感動を十分に得られるようにする。

●食育計画

- ・米作りや野菜栽培、調理活動などを通して、食への興味・関心を育むとともに、自然の恵みや食に携わる人への感謝、命を大切にすることを養う。
- ・食文化に触れる体験や食事の準備に関わるなど、子どもたちが自ら生活の場を整え、見通しを持って行動する意識を高める。

●保健衛生計画

- ・子どもたちが心身ともに健康で安全に過ごせるよう保健管理(心身面・環境面)を適切に実施していく。
- ・子どもたちが自分の体や健康に関心を持ち、より健康な生活を送ることができる意欲と実践力を育てる。
- ・感染症等の予防に努め、子どもたちへの指導や家庭への積極的な情報発信による協力の呼びかけ等を行う。

●子育て支援計画

- ・子どもの最善の利益を踏まえ、子どもの育ちを家庭と連携して支援していく。また、保護者及び地域の子育て力の向上に努める。
- ・子どもと保護者のニーズに応えた多様な事業・活動を展開する。(体調不良児対応型、預かり保育、障害児保育、一時預かり事業、保育参加等)
- ・子育て親子の交流の場の提供、育児相談、子育て関連情報の提供などを通して地域の子育て支援の充実を図る。

●小学校との連携・接続

- ・学校見学、交流会(1年生)、連絡会、園長・小学校長や職員の相互参観や意見交換、その他により積極的に連携を図るとともに、幼児教育と小学校教育の相互理解を促進する。
- ・小学校職員とともに、架け橋期のカリキュラム作成を推進する。

●地域との連携

- ・地域の方々との交流活動の充実及び地域文化の継承。(蓮代寺太鼓・がめつき音頭他)
- ・情報誌を作成・配布し、園の取り組みを積極的に発信する。
- ・スマイルサポート(買い物バスの運行)による支援、スマイル農園の活用による高齢者等との交流。
- ・災害時における地元町内との協力体制。

●加算事業実施予定

加算事業状況		加算事業
加算部分①	実施事業	処遇改善等(区分1及び区分2)、学級編成調整加配、3歳児配置改善、満3歳児対応加配(未定)、チーム保育加配、通園送迎、給食実施、講師配置、1歳児配置改善
	未実施	副園長・教頭配置、外部監査費
加算部分②	実施事業	療育支援、処遇改善等(区分3)、冷暖房費、栄養管理
	未実施	除雪費、降灰除去費
	3月事業報告	施設関係者評価、高齢者活躍促進、施設機能強化推進、小学校接続、保育ICT推進(予定)

●特別保育事業等実施予定

特別保育事業	補助金の有無	実施状況
延長保育促進事業	適用あり	実施
病児保育事業(体調不良児)	適用あり	看護師1名配置
地域子育て支援事業	小松市廃止	実施(きらきらぼし)
一時預かり事業	適用あり	実施
保育体制強化事業	適用あり	職員配置
保育補助者雇上強化事業	適用あり	職員配置
外国児童支援事業	適用なし	在籍なし

●小松市単独保育事業等実施予定

保育環境支援(障害者雇用枠)	50,000円/月	実施なし
住居支援事業	13,000円/月/人	該当職員有

★定員と入園状況(下段は4月在園予定人数)(R8.1.15現在)

定員	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	小計	合計
1号				5	5	5	15	75
				6	4	5	15	
2号				10	10	10	30	72
				10	12	11	33	
3号	10	10	10				30	(96.0%) 対前年 ▲5
	3	12	9				24	

大和こども園分園「やざき乳児保育園」

令和8年度事業計画

★★中長期計画(5ケ年計画)

●教育保育目標

- ・心身ともに健やかな子ども
- ・豊かな感性をもった子ども
- ・心やさしく思いやりのある子ども

●施設整備計画

年度	R6	R7	R8	R9	R10
計画					

●人事計画目標

- ・職員研修規程の積極的運用により資質向上を図る。
- ・キャリアアップ研修の計画的受講等により、職員一人一人のキャリアの構築を目指す。
- ・園内研修及びカンファレンスを通して専門性を高める。
- ・幼稚園教諭免許取得、保育士資格取得の推進。

●収支計画目標

- ・園児数の確保と適切な予算の執行に努め、収支の安定を図る。

★単年度事業計画

●保育計画

- ・健康で安全な環境を整えて子どもの様々な欲求を満たし、子ども一人一人が安心して過ごせるようにする。
- ・家庭的な雰囲気の中で一人一人の子どもとの温かいふれあいを大切に、心地よく過ごせるようにする。
- ・身近な環境に興味や好奇心をもって関わり、様々な体験を通して、感じたことや考えたことを表現する力の基礎を培う。
- ・受容的、応答的な関わりの中で愛着関係を形成し、人に対する愛情や信頼感、生きる喜びを育む。

●食育計画

- ・家庭と連携しながら個人差に応じて授乳、離乳を進め、健やかな発育、発達を促す。
- ・安定した生活リズムの中で様々な食品や調理形態に慣れ、食べることの喜びを感じられるようにする。
- ・様々な食育活動を通して食に関心をもち、自ら意欲的に食べようとする力を育てる。
- ・地産地消を心がけ、安心、安全な食を提供する。

●保健衛生計画

- ・園児の健康状態や発育及び発達の状態を把握し、園児一人一人の健康の保持及び増進に努める。
- ・園内の衛生環境を整え、疾病や感染症対策を適切に対応していく。

●子育て支援計画

- ・子どもの利益を最優先するとともに、保護者の自己決定を尊重し、子どもの育ちを家庭と連携して支援していく。
- ・地域の子育て家庭への支援を行っていく。(交流の場の提供、育児相談や情報提供等の援助、離乳食等の栄養相談、子育てに関する育児講座等の実施)

●地域との連携

- ・災害時における地元町内との協力体制の構築。
- ・情報誌を作成し、情報発信を積極的に行っていく。

●加算事業実施予定

加算事業状況		加算事業
加算部分①	実施事業	処遇改善等(区分1及び区分2)、1歳児配置改善
	未実施	外部監査費
加算部分②	実施事業	処遇改善等(区分3)、冷暖房費、栄養管理
	未実施	療育支援、除雪費、降灰除去費、施設関係者評価
	3月事業報告	施設機能強化推進

●特別保育事業等実施予定

特別保育事業	補助金の有無	実施状況
延長保育促進事業	適用あり	実施なし
病児保育事業(体調不良児)	適用あり	看護師1名配置
地域子育て支援事業	小松市廃止	実施(あつぷっぷ)
一時預かり事業	適用あり	実施
保育体制強化事業	適用あり	職員配置
保育補助者雇上強化事業	適用あり	職員配置
外国児童支援事業	適用なし	在籍なし

●小松市単独事業等実施予定

保育環境支援(障害者雇用枠)	50,000円/月	実施なし
住居支援事業	13,000円/月/人	該当職員なし

★定員と入園状況(下段は4月在園予定人数)(R8.1.15現在)

定員	0歳	1歳	2歳	合計
	9	6	5	20 対前年 ±0
3号	3	6	3	12 (50%) 対前年 +4

幼保連携型認定こども園「湯野こども園」

令和8年度事業計画

★中長期計画(5ヶ年計画)

●教育保育目標

「心も体も元気な子ども」「感性豊かで意欲ある子ども」

「関わる力と思いやりのある子ども」

●施設整備計画(予算単位：千円)

年度	R6	R7	R8	R9	R10
計画	園舎実施設計 園舎新築工事	園舎新築工事 完成			

●人事計画目標

- ・処遇改善等加算区分3の効果的運用により、職員一人一人の意識向上を図り、人材育成と組織力向上を目指す。
- ・職員研修規程の積極的運用、キャリアアップ研修の計画的受講等により職員一人一人の資質向上とキャリアの構築を図る。
- ・OJTの実施により若手職員を育成し実践力を高める。

●収支計画目標

- ・職員の適正配置による運営及び、加算・補助金の確保。
- ・適切な予算の執行に努め、収支の安定を図る。

●業務の改善

- ・効率的な人員配置によりノンコンタクトタイムの確保に努める。

★単年度事業計画

●教育保育計画

- ・子ども一人一人が身近な大人へ信頼感を持つ中で自分への自己肯定感といった心の土台(安全)を育み、環境を通して意欲を持って主体的に活動し、試行錯誤を繰り返す中で(自然)、人との関わりを楽しみながら社会性・人間性を育てていく(積善)子ども主体の活動により、学びに向かう力(意欲・好奇心・協調性・粘り強さなど)を育む。
- ・近隣の環境に積極的に関わって四季折々の自然を思う存分体験し、五感を育てて学びを深める。
- ・栽培活動を通して、収穫の喜びや自然の移り変わりなど、様々な感動を十分に得られるようにする。
- ・持続可能な社会作りの担い手として、生活や遊びを通じた身近な体験や活動(ESD)から、SDGsの目標を目指そうとする意識の芽生えを育む。

●食育計画

- ・生活と遊びの中で、様々な食に関わる体験を重ね、食の大切さや楽しさを知り、豊かな心と体を育てる。
- ・年齢に応じた食事のマナーを身につける。
- ・様々な体験を通して、自然の恵みと食に携わる人への感謝の気持ちを育む。

●保健衛生計画

- ・子どもたちが心身ともに健康で安全に過ごせるよう保健管理(心身面・環境面)を適切に実施していく。
- ・子どもたちが自分の体や健康に関心を持ち、より健康な生活を送ることができる意欲と実践力を育てる。
- ・「保育所における感染症対策ガイドライン」にのっとり必要な対策を行う。また、子どもたちへの指導や保護者への積極的な情報提供・発信による注意喚起・協力依頼を行う。

●子育て支援計画

- ・保護者との相互理解のもと、子どもの育ちを家庭と連携して支援していくとともに、保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上を支援する。
- ・地域の関係機関等と連携及び協働し園の支援体制の構築に努める。
- ・子どもと保護者のニーズに応えた多様な事業・活動の展開(体調不良児対応型、預かり保育、障害児保育、保育参加等)
- ・地域の子育て支援の機能の充実。(子育て親子の交流の場の提供と交流の促進、子育て家庭や妊婦の相談と援助、地域の子育て関連情報の提供他)

●小学校との連携

- ・学校見学、交流会、連絡会等により積極的に連携を図り、協力体制を深める。
- ・小学校教諭の保育見学や「資質能力の三つの柱」「10の姿」を中心とした話し合い等により、幼児教育への関心と理解を深め、相互のカリキュラムを共有し接続につなげる。

●地域との連携

- ・災害時における地元町内会との地域協定の締結、協力体制の構築。
- ・地域の方々との交流活動の促進及び地域文化の継承。(九谷焼体験他)
- ・情報誌を作成・配布し、園の取り組みを積極的に発信する。
- ・あいさつデー等により民生児童委員との連携を図る

★定員と入園状況(下段は4月在園予定人数)(R8.1.15現在)

定員	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	小計	合計
1号				3	3	4	10	210
				1	3	4	8	
2号				35	30	40	105	182
				37	30	40	107	
3号	25	30	40				95	(86.6%)
	6	24	37				67	対前年 +11

放課後児童クラブ「芦城児童クラブ」

令和8年度事業計画

★中長期計画(5ケ年計画)

●保育方針

「子どもたちの自己肯定感を育む」

- ・無条件に愛される体験
- ・褒められる体験
- ・共感される体験
- ・感謝される体験
- ・達成感を得られる体験

●人事計画目標

- ・優秀な人材の確保と育成。
- ・キャリアに応じた研修の推進、支援員の質の向上を目指す。
- ・放課後支援員認定資格の取得。

●収支計画目標

- ・適正な職員の配置による運営及び交付金の確保。

★単年度事業計画

●生活環境を整える

・利用児童数に合わせて、空き教室やふれあい広場を活用し、子どもたちが、安心安全に活動できる環境を整える。

●児童の自主性、社会性、創造性を育む

・発達段階に応じて主体的な遊びや生活が可能になるように支援していく。

- ・学年に応じた行事の企画をする。
- ・遊び仲間づくりへの援助をする。
- ・縦割りのグループを作り上級生のリーダー性を育てる。

●コミュニケーション力を高める

・一人一人の違いを理解し、豊かに言葉を使って仲間と交わることができるように支援していく。

- ・こどもせんりゅう（表現力）
- ・ふれあいタイム（体を動かしての集団遊び）

●支援員の研鑽、研修

・適切な支援を行うために支援員、補助員は資質の向上を目指し、自己研鑽に励み、研修に参加する。

- ・施設内研修の充実、事例検討会を開催する。
- ・研修会への参加によりスキルを磨く。

●保護者との連携

・子どもに関する情報を家庭と共有することにより、子育てと仕事等を両立できるよう支援する。

- ・アプリを活用した、お便りやお知らせの配信、連絡のやり取りやアンケートを実施する。
- ・必要に応じ個別での面談を行う。
- ・ホームページで毎月の児童の様子を知らせる。
- ・保護者参加型の行事を行う。

●学校・関係機関との連携

・子どもに関する情報を学校と共有し、気になる子どもについては関係機関に相談し、適切な支援を実施する。

- ・学校との情報交換会を行う。（前期・後期）

●地域との連携

- ・地域の方の参加型の行事を行う。
- ・縦割りグループごとに地域のお店でおやつを購入する。
- ・学校周辺のゴミ拾いのボランティアに参加する。

●事業実施予定(国庫事業)

実施事業	芦城児童 クラブ 1	芦城児童 クラブ 2	芦城児童 クラブ 3
・基礎(額)事業	児童数 45	児童数 45	児童数 45
・開設予定日数	年 290 日		
・長時間開設(平日)	7 時間/日超開所/30 分以上		
・長時間開設 (長期休暇)	長期休暇中 8 時間以降開所/11.5 時間開所 (+3.5 時間)		
・障がい児受入促進 (国・県)	2 名	2 名	1 名
・支援員等処遇改善	18 時 30 分以降開所と処遇改善実施		
・障がい児受入 強化推進	1 名以上 受入なし	1 名以上 受入なし	1 名以上 受入なし
・開所時間延長促進	12 時 00 分～19 時開所		
・キャリアアップ処遇改善	3 名	3 名	2 名

●事業実施予定(県単事業)

実施事業	芦城児童 クラブ 1	芦城児童 クラブ 2	芦城児童 クラブ 3
・指導員複数配置促進 (障がい児受入促進)	障がい児 2 名以降		
	1 名	1 名	0 名
・開所時間延長促進	12 時 00 分～19 時開所		

★定員と入所予定状況 (1/15 現在)

学年	定員等	芦城児童 クラブ 1	芦城児童 クラブ 2	芦城児童 クラブ 3
		定員 45 名	定員 45 名	定員 45 名
1 年生		20	20	10
2 年生		15	15	15
3 年生		15	15	15
4 年生		10	10	5
5 年生		0	0	0
6 年生		0	0	0
計		60	60	45

放課後児童クラブ「蓮代寺児童クラブ」

令和8年度事業計画

★中長期計画(5ケ年計画)

●保育方針

「子どもたちの自己肯定感を育む」

- ・無条件に愛される体験
- ・褒められるという体験
- ・共感してもらえる体験
- ・感謝される体験
- ・達成感を得られる体験

●人事計画目標

・経験年数やそれぞれの役割等キャリアに応じた研修を推進し、支援員の質の向上や児童クラブの運営の向上に向けて、人材育成を図る。

●環境整備

・地元町内にもご協力いただき小松市に要望を提示。小学校の一角を利用し保育をしているが、明らかに子ども（在籍数）に対して面積が不足しており、現状の環境は決して良好とは言えない。本件については以前より小松市に要望している事項であり、監査時においても課題であることは明白であったが大きな変化はなく、引続き改善を訴えていき、子どもたちが快適に過ごせるよう環境を整えていきたい。

★単年度事業計画

- ・保護者との信頼関係の構築
- ・学校との連携を積極的に図る

●生活環境を整える

子どもが安心して過ごせる生活の場として、ふさわしい環境を整え、安全面に配慮しながら、子どもが自ら危険を回避できるよう支援していく。

●児童の自主性、社会性、創造性を育む

子どもの発達段階に応じて主体的な遊びや生活が可能となるように、自主性、社会性及び創造性の向上、基本的な生活習慣の確立等により、子どもの健全育成を図るよう支援する。

- ・子どもたちが主となる行事の計画
- ・季節に応じた工作や行事の計画
- ・遊び仲間づくりへの援助

●コミュニケーション力を高める

子どもが自分の気持ちや意見を表現することができるように援助する。

- ・読み聞かせ（表現力・読む力・聞く力）

●支援員の研鑽、研修

適切な支援を行うために支援員、補助員は資質の向上をめざし、自己研鑽に励み、積極的に研修に参加する。

- ・毎日の打合せでこどもに関する情報の共有

- ・施設内研修の充実、事例検討会の開催

- ・研修会への参加によりスキルを磨く

●保護者との連携

常に保護者と密接な連携をとり、放課後児童クラブにおける子どもの様子を日常的に保護者に伝え、子どもに関する情報を家庭と共有することにより、保護者が安心して子どもを育て、子育てと仕事等を両立できるよう支援する。

- ・お迎え時の声掛け
- ・お便りの発行
- ・ホームページ、コドモンの活用
- ・アンケートの実施

●学校・関係機関との連携

子どもの生活の連続性を保障するために、情報交換や情報共有、職員同士の情報交換によって子ども理解を深める。

- ・学校と年2回以上の情報交換会を行う
- ・災害等の安全管理に関する情報連携

●事業実施予定(国庫事業)

実施事業	蓮代寺児童クラブ
・基礎(額)事業	児童数 25 名
・開設予定日数	年 290 日
・長時間開設(平日)	7 時間/日超開所/30 分以上
・長時間開設(長期休暇)	長期休暇中 8 時間以降開所/10.5 時間開所 (+2.5 時間)
・障がい児受入促進(国・県)	1 名
・支援員等処遇改善	18 時 30 分以降開所と処遇改善実施
・障がい児受入強化推進	3 名以上受入なし
・開所時間延長促進	12 時 00 分～19 時開所
・キャリアアップ処遇改善	2 名

●事業実施予定(県単事業)

実施事業	蓮代寺児童クラブ
・指導員複数配置促進 (障がい児受入促進)	障がい児 2 名以降 1 名
・開所時間延長促進	12 時 00 分～19 時開所

★定員と入所予定状況 (1/15 現在)

学年	定員等	蓮代寺児童クラブ
		定員 25 名
1 年生		8
2 年生		17
3 年生		6
4 年生		1
5 年生		3
6 年生		0
計		35

中高年齢者生涯学習講座「大和ぬくもり大学」

令和8年度事業計画

●成り立ち

昭和19年6月に大和善隣館が開設され、小松市における福祉と文化・教育の拠点施設として多彩な活動を展開してきた。また、小松市より「小松市中央老人福祉センター」事業を受託し、大和善隣館において管理運営。中高年齢者の健康、就労等の相談、健康増進や教養の向上などの生活福祉の向上に努めていく。

●大和ぬくもり大学の設置

近隣地域における健康な中高年齢層を対象にその生活の向上と改善をはかるため、「であい・ぬくもり・ささえあい」を目標に利用者の生きがい創出を目指して、「大和ぬくもり大学」を設置している。今年度も教養・文化・体育部門にかかわる13講座3クラブを開設する。(令和8年1月現在)。

★中期計画(5ヶ年計画)

●常勤職員1名体制へと変化したことにより、事業の自由性・拡張性は阻害されてきたが、この機会に講座の独立性と講師・受講生の自主性が発揮できる講座・クラブへと転換をはかってきた。

※主催講座の独立、講座→クラブへの変更など

●少子高齢化が進み、就業人口減少が叫ばれる現在、高齢者就業制度が推進され、定年70歳の時代がすぐそこまで迫っている。「大和ぬくもり大学」事業を継続の必要性和、維持できる体制構築を常に検討していく。しかしながら、利用者が5名を切った場合には、継続性を断念し講座閉鎖を原則としている。

●大和ぬくもり大学の小松市所管が、生涯学習をつかさどる教育委員会からふれあい福祉課→長寿介護課と時代と共に移管され、利用者の機能維持のためのフレイル予防の性格も加わり、“安否確認”も事業の目的に加わった。(公益事業的役割の増大)

●相談コーナーについて

小松市中央老人福祉センター委託事業である中高年齢者の生活福祉相談について、これまで本部機能との共存で社会福祉主事等の配置を実施できたが、単独運営時の相談事業についての質の低下は免れない。昨今の相談件数の減少の中で、当事業の在り方を引き続き検討する。

●新事業展開

・芦城センターの空室状況とのマッチングを考慮しながら、新事業展開(講座、クラブ)を開講する。

●ICT化推進

高齢者の携帯電話→スマートフォンへの移行も進んでおり、モバイルメッセージアプリ「LINE」も普及している。講座利用者に「ぬくもり大学ライングループ」への登録で、講座の開

催通知ホームページへのアクセス回数も増加し、情報連絡手段として活用されている。

●大和ぬくもり大学の講座

開設講座	講師名	開講日
社交ダンス	関 武弥	毎週(木)午後
茶道	大橋 みどり	第2,4(水)午前
俳句	有賀 三枝子	第2(金)午後
歴史	山前 圭祐	第3(木)午後
書道	有賀 虹萌	第1,3(水)午前
詩吟	辻 岳絢	毎週(金)午後
歌謡舞踊	千田 もと子	第1,2,3(火)午前
水彩画	曾我 章	第1,3(火)午前
パソコン	出口 美子	第1,3(金)午前・午後
小さな水彩画	曾我 章	第1,3(木)午後
ぬくもりヨガ	中嶋 美雪	第2,4(金)午後
リフレッシュ ダンス	水高 敦子	第1,2,3(火)午後 第1,2,3(水)午後 第1,2,3(金)午後
加賀水引	水谷 絹代	第2(火)午前
合唱クラブ	朝岡明美・太田雪江 手取屋範子	第1,3(土)午前
囲碁クラブ		毎週(火)午後
歌謡曲クラブ		毎週(水)午後

本部事務局

令和8年度事業計画

★中長期計画(5ケ年計画)

●法人理念の再確認

「善隣のこころ」

「いつでも どこでも そしてだれにでもわれ等善き隣人たらん」

先人が遺したこの想いを後世に伝えるために、その時代でのこの理念が持つ意味や価値を再考しながら、職員や児童・保護者等利用者に理解してもらえ事業を遂行していく。

●大和善隣館ブランドの浸透と確立

・近年の主要テーマとして大和善隣館ブランドの浸透と確立を1つの大きな軸(柱)として考えてきた。本テーマは今年度以降も引続き追及していききたい重要課題である。法人の規模は以前に比べ大きくなっているが、まだまだ法人認知度が低いと痛感しているため、如何にして【大和善隣館＝小松市能美市にて認定こども園・学童クラブを運営する法人】であると学生・求職者等に即座に認識してもらえ法人になれるか、今後もPRや情報発信を続けていきたい。また、利用者や求職者等から、教育保育施設と言えば、まず最初に『大和善隣館』と選ばれる法人にブランディングしていきたい。

・今年度、法人創立82年となるが、少子化・保育士不足等によりこども園の運営に関する環境は随時変化しており、以前に増して厳しい環境下におかれていると実感する。そんな中でも「生き残れる法人・求められる法人」を目指すべく、今後についても先人の功績の上に確かな足跡を残し、大和善隣館として、90周年、そして100周年と胸を張って迎えることが出来るように法人を導いていきたい。

●今後の事業展開

・能美市立湯野保育園(現湯野こども園)の民営化を行い、早2年が経過した。昨年10月末には認可定員215名受入れ可能な規模の新園舎が完成、また3,600㎡を超える広々とした園庭も完備し、ハード面は整った。今後この新たな環境をいかにしてより良い「教育・保育」に繋げ、利用者へ提供できるかが重要であると感じる。改めて保護者や地域の方々に大和善隣館が能美市にきて良かったと思っていただけるよう引続き事業に邁進する。また、他市の動向についてもこれまで同様引続き意識し情報収集は行っていきたい。

・やぎき乳児保育園の経営に関しては非常に厳しいのが現状である。1名の入園が辞退になるだけでも経営状況が大きく左右されるような脆弱な経営基盤であるといっても過言ではない。大和こども園の分園である以上、安定経営に向けた大きな変化は見込めないと思料するものであり、今後あらゆる選択肢を検討しつつ、地域の期待に応えていきたい。

・今後の方針は策定済の「法人中期計画(2030年ビジョン)」に沿った事業展開を適宜見直しも行いながら実施していく。以降については、少子化による急速な人口減少と団塊ジュニア世代が高齢者(65歳以上)となることで高齢者人口が最大となる問題「2040年問題」に直面することが想定されるため、子ども・若年層が減少するなかでの人材確保や、事業展開についてもこれらの諸問題を念頭に置き検討していかなければならない。地域の人口・世帯数の減少、地域に応じた福祉ニーズの相違等を考慮し、対応していきたい。

●奨学金貸与事業

・福祉人材育成の応援資金として「奨学金貸与規程」制定、「定款」での公益事業認可を経て事業を開始。

平成29年取組開始以降9年目を迎える。取扱い件数は決して多くはなく、周知方法に苦慮しているが、引続き多くの学生に

利用していただきたいことから、今後についても奨学金制度の活用を促進すべく、引続きPR活動を行っていききたい。特に企業実習に来てくれる高校生や県内在学生、出身学生への情報提供に注力する。また、養成校の実習生やフェアでのアピール等、奨学金の存在自体を周知していきたい。

・昨年度より奨学金返済補助手当の導入を行い、該当職員には手当を支給している。本手当を活用することによって返済負担を現状より軽減することが見込まれる。

●職員採用・育成計画について

・令和4年度に動画配信を行うべくYouTubeチャンネルの開設をした。動画を活用し、新卒者や求職者等に向けたPR活動を積極的に行い、少しでも保育業界に興味を持っていただける方が増えるよう、定期的に配信した。また、求職者向けだけではなく、こどもたちの日常の保育の様子や行事等を配信することによって、保護者の方々にも普段の様子を観ていただけると共に、こども園のことや法人をより知ってもらう1つのツールとして活用した。引続き定期的に情報発信していきたい。

・採用計画において、奨学金制度の活用のほか、法人職員からの紹介制度、「リファラル制度」の活用により、「優秀なキャリア人材」の採用に引続き注力していきたい。また、実習生にも法人の魅力を知っていただき、採用に繋げていきたい。

・キャリアパス規程に基づく、キャリアパスフレームの標準化と職員への周知徹底により、職員一人一人が自身のキャリアを長期的に捉えることにより、これが“事業の質”の向上につながるよう引続き仕組みづくりと研鑽を行う。また、人事評価シートデータのデータ化移行を検討し、作業効率化を図りたい。

●SDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)宣言に対する取組

・当法人では令和3年度に小松市、令和6年度より能美市においてSDGs宣言をした。運営上最も該当するであろう6つのゴール(開発目標)に絞り宣言し、宣言だけで満足するのではなく、達成年限である2030年に向け、あらゆる取組を実践していきたい。昨年度は「湯野こども園」新園舎にて「太陽光発電設備」を設置。また、カーボンオフセットLPガス(温室効果ガスの排出量を実際ゼロにしたLPガス)を使用し、環境に配慮した取組を実施。その他、電気自動車購入を見越し、「月津こども園」及び「蓮代寺こども園」にてEVコンセント設置工事を実施した。更には、法人職員への福利厚生の一環としてハイブリット車や電気自動車購入に対する助成も実施し、環境保全に繋げていきたい。

・SDGsについては、職員1人1人が意識して心掛けることが最も重要ではあるが、何よりこどもたちと一緒に学び、楽しみながら実践することが大切だと感じている。家庭においても親子の会話の中で、何かSDGsに触れるきっかけを作れるよう引続き取組んでいきたい。

●「いしかわ魅力ある福祉職場認定制度」認定更新

・平成30年4月1日に認定された「いしかわ魅力ある福祉職場認定制度」の更新を迎えた。(有効期限:令和9年2月28日)本認定は人材の育成や安心して長く働くことのできる魅力ある職場づくりに取組んでいる事業所として石川県より認定され公表される。有効期限満了に伴い、再度更新申請を行ったが、認定をいただくからには、少しでも多くの職員に働きやすい職場で安心して長く働きたいと思える法人になれるように引続き環境の整備に努めていきたい。また、制度には直接関係はないが、職員の職務満足度の向上にも注力していきたい。職務満足度が向上すれば必然的に離職防止にも繋がる効果が見込まれる。職場環境における物理的要素または職員同士による人間的要素等、満足度を向上させる理由は職員それぞれ違いはあるが、結果的に法人全体として向上できるよう検討したい。